

系統集荷 早期の価格提示続く

認定農業者へ三重単協買取り コシ2万6,000円提示 概算金2万3,000円予想も

地元集荷筋によれば、東海の早場地域である三重県内のA農協は、管内の一部認定農業者向けに7年産米の買取価格（JA米1等60%，税込み）を数量限定で提示しているという。

8月20日集荷分までの早期あきたこまちは2万8000円、9月中旬集荷分までのコシヒカリは2万6000円に設定した。例年であれば8月盆前後に設定される全農概算金を基準に各地域の農協が単価を設定するが、A農協は異例の早さで買取価格を提示。地元卸によれば、「6年産で管内の認定農業者のコメの多くが県外の商人系などに流れたことも大きい。ただし、あくまでも数が限られた認定農業者向け。それ以外はコシ概算金で2万3000円程度になるのではないか」ともみられている。

またB集荷業者は、「昨年買い負けた地元業者はスタートで高値を提示するだろうが、備蓄米の販売価格に慣れた一般消費者が求める金額は5%3500円まで。猛暑の影響を含む生育状況、政府対応にもよるだろうが、2980円での特売を考えると庭先価格は2万3000~5000円程度に抑えることになるのではないか」と予想している。

埼玉単協 コシ2万3千円に 全農目安、前年比6千660円高

埼玉県の関係筋によると、県内のA農協がこのほど、組合員生産者に7年産JA米の概算金を通知した。例年通り8月に決定される全農の概算金については、今後的情勢によって変動することが予想されると説明しながら、その「目安価格」を示している。

同JA概算金（1等玄米、60%税込み）は、主要銘柄のコシヒカリ・彩のきずなが2万3000円、彩のかがやきが2万2500円。共同計算による支払いは概算金+精算金の合計となる。販売情勢によっては、概算金の追加支払いも迅速に行っていくとしている。

なお、全農による概算金の目安価格は、JA米コシヒカリが2万3000円、彩のきずな・彩のかがやきが2万2000円、あきたこまちのほかミルキークイーン・日本晴が2万1500円、その他一般米が2万0500円。前年価格比でコシが660円高、彩のきずなは同6100円高、こまちは同5900円となる。

夢つくしなど一律 2万2千円 JA福岡京築の最低保証額

福岡のJA福岡京築はこのほど、令和7年産夢つくし・元気つくし・ヒノヒカリについて、JA米の生産者概算金最低保証額を一律2万2000円（1等、60%）と決定した。前年比で夢つくしは5480円高、元気つくしとヒノヒカリはともに6220円高の設定となる。正式には8月下旬に最低補償額に追加加算額を含めた金額を決定し、最終概算金として通知する。

なおJA福岡京築によると、6年産の生産者概算金（1等60%）の内訳は、夢つくしが当初概算金1万6320円、追加概算金4080円、中間概算金1200円で、最終概算金は2万1600円だった。同じく元気つくしとヒノヒカリは、いずれも当初1万5780円、追加3540円、中間2280円で、最終2万1600円だった。

早期コシ等8千600円高 2万7千円 JA鹿児島きもつき概算金

鹿児島のJA鹿児島きもつきが7日、7年産早期米コシヒカリ・イクヒカリ・なつほのかの生産者概算金（1等、60%、税込み、期間設定なし）を一律で2万7000円に決定した。前年比8600円高の設定となる。等級間隔差は2等が1等の400円安、3等は2等の600円安。鹿児島では、20日前後から刈り取りが始まる見込みだ。

産地筋によると、同じ早期米産地の宮崎では16日の理事会で概算金が決まる模様。コシ1等2万6000円が有力との情報が伝わっている。